

四季折々の農村風景がなつかしさと やすらぎをもたらす交流のむら

—景観保全機能—

しきさい 四季彩のむら



「四季彩のむら」の風景



石積みで修復された美しい棚田

「四季彩のむら」は、高鍋町の高平・大平寺地区にある山間農地（田畑計 6ha）で、その生産者で構成される活動団体の名称でもある。この地域には、都市と農村がバランスよく共生していた昭和 30 年代の農村風景の面影があることから、これを学習やすらぎの場を提供する地域資源として残そうと、平成 13 年から町と地域が連携し、石積み棚田や耕作道の整備など修景に着目した事業を展開している。

また、四季彩のむらでは、石積みの棚田に彩り豊かな農作物の作付け活動を中心とする景観保全の取組や、親子での農村体験（田植・稲刈り）をはじめとする交流イベントの開催など、農業・農村の持つ魅力を活かしながら、地区外からの来訪者にやすらぎを提供し、地域振興につなげている。



たかいなべ
宮崎県高鍋町

〔景観の保全〕

昭和 30 年代の農村風景をイメージし、町と連携しながら、遊歩道、石積み棚田や耕作道に架かる橋の整備などの修景、鯉のぼり掲揚や彼岸花、山桜の植栽に取り組んでいる。また、現在は周辺地域では早期米がほとんどであるが、当時は普通期米が主流であったことから、普通期米の栽培に切り替えることで、田では、春にはレンゲ、夏には水稻、秋には稲穂の掛け干しやソバの栽培など、四季折々の景色を楽しむことができるようにしている。

〔地域社会の振興、体験学習と教育〕

親子での農村体験をはじめ、ウォークラリーや、役場の若手職員有志の「たかなべ希望のまちづくりグループ」と連携しながら、観賞用水稻で描く水田アート（35 a）の鑑賞会など多彩なイベントを展開し地区内外の交流を行っている。

近年では、宮崎大学と連携し、里山の環境が作物に及ぼす効果の研究や四季彩のむらブランド化の検討を進めている。

今後は、地区に併設する総合交流ターミナル「高鍋温泉めいりんの湯」や「高鍋湿原」などの地域資源も有効に活用しながら一層の地域振興につなげることをしている。



春の水田を彩るレンゲ（緑肥）



秋を感じる稲の掛け干し

四季彩のむらの主なイベント



親子の農村体験（田植・稲刈）



観賞用水稻で描く水田アート